科目区分，教職科目Ａ
授業科目名,道徳指導論

授業の明日に向けて

学校教育・伴野昌弘

１・授業の概要と工夫

本授業は、教育学部の２回生を対象とした教職専門科目（必修）である。８３名の受講生の殆どの者は、３回生或いは４回生で教育実習を行うことになっている。それ故、シラバスの授業目的に示したように本授業は、原理的、実践的かつ教師論的内容も視野に入れ、本年度も次のような二部構成になっている。即ち、前半部（１１回）は、担当者（筆者）による基礎的原理的な講義であり、後半部（４回）は、二人の実地非常勤講師（大野誠司先生・斎藤照夫先生）による実践的な講義である。さて、前半部の担当者による講義においては、本年もシラバスに示した授業目的「道徳とは何か、道徳性の発達や道徳教育の理論・歴史、道徳教育の方法論について学び、道徳指導の実践力を身に付ける。」が達成されるよう各回の授業項目に則して講義した。以下、五つの到達目標を記し、授業を概観しよう。到達目標（１）「人間にとっての道徳の必要性を理解し、道徳および道徳教育とは何かについて説明できる。」これは授業項目の第１回から第３回に対応し、道徳への興味付けのため、筆者の最も工夫した箇所である。特にオリエンテーションで本年も現代詩「ゆうやけ」を板書して鑑賞させた。そして意見を聞き、レポートも課し、各人を道徳的感性に目覚めさせ、「善意志」とは何かを主体的に考えさせたが、興味を惹いた。到達目標（２）「道徳性の発達に関する処理論を学び、問題点を指摘できる。」これは授業項目の第４回と第５回に対応し、コールバーグの説を中心に考えたが、興味を惹いた。到達目標（３）「道徳教育の諸理論と歴史を学び、各理論の道徳観、指導過程を説明し、問題点を指摘できる。」これは授業項目の第６回と第７回に対応し、本授業の中核である。工夫として、道徳教育の重要性理解のため、過去に受けた道徳授業を先ず反省させた。そして、小中学校の教師であれば、教科を超えて誰しも道徳の専門家であるという事実を理解させた。到達目標（４）「現行の学習指導要領及び解説道徳編等から道徳教育の目的・内容・方法について学び、それらを説明することができる。」これは授業項目の第８回から第１０回に対応し、道徳に関わる教師の実践力、基礎教養の醸成に重要である。工夫としては「絵本」「児童文学」（意外に興味を惹く）など多様な副読本を紹介し、その意味を理解させた。到達目標（５）「上記の学習を通して、暫定的な自分なりの道徳教育観を持ち、道徳の授業をデザインし、指導案を作成することができる。」これは授業項目の主に第１１回から１４回に対応し、実践的であり、現段階で到達困難な目標かも知れない。しかし、本年も非常勤の二人の先生方の温かいご指導のお陰で目標達成に専念でき、心から感謝している。

２・学生達の反応

本年も授業全般に関わる感想、意見、印象的な点を自由に記してもらったが、代表的なものを次に記そう。

①第１回目の「ゆうやけ」の詩が新鮮で、授業に引き込まれ道徳観が変わった。（多数）
②教科を超えて道徳の重要性を初めて知った。人間として大切なこと（愛など）を学んだ。
③名を呼び、目を合わせる出席の取り方が嬉しい。（多数）
④非常勤の先生を含めて、教育内容（絵本など）を工夫され、感動的授業だった。

3・総括と反省

二人の実地非常勤講師の御協力で、授業全般は学生に概ね肯定されたと言える。しかし、担当者として次の点は自己反省しておきたい。即ち＊指導案の書き方の指導を更に工夫すること。＊板書を計画的に整理し工夫すること。等である。